

# 奥山遺跡

発掘調査概報



1998年3月

柏原市教育委員会

## 例言

1. 本書は柏原市教育委員会が1996年度と1997年度に原因者負担事業として実施した、西名阪自動車道柏原料金所新設に伴う、奥山遺跡の発掘調査概報です。
2. 調査は柏原市教育委員会社会教育課 石田成年が担当しました。
3. 現地調査と整理作業には、次記の方々の参加がありました。  
谷川洋史 尾野絹江 今西芳文 富田都子 浅野正子  
有江マスマミ 乃一敏恵 村口ゆき子 山本允子 (順不同・敬称略)
4. 調査にあたり、関係各位には格別のご配慮を賜りました。記して謝意を表します。  
日本道路公団大阪管理局南大阪管理事務所 株式会社吉田組 井上工業株式会社  
東海アナス株式会社 アジア航測株式会社 (順不同)
5. 図中の方は方位は磁北を指し、標高は東京湾平均海水面(T.P.)を基準としました。



▲ 私たちが撮りました



▲ 奥山遺跡の位置



## 遺跡の様子

西名阪自動車道に柏原料金所が新設されることとなり、古墳時代後期(6世紀)の横穴式石室が多く残る「<sup>磐田山</sup>磐田山古墳群」の一角が工事区域に含まれました。過去の土取りによって元の地形はすでに失われており、古墳は残っていないもの、そのわずかな痕跡や見つからない集落の可能性も考えられたことから、1996年の春、試掘調査を行いました。

その結果、古墳に使われていたと思われる巨大な石材が散乱していることの他に、サヌカイトの破片が多く見つかり、石器作りをしていた場所であることが想像されました。特に、対象地内の2本の尾根のうち、今まで遺跡として考えられていなかった東側尾根(B調査区)から多く見つかりました。この場所については新発見の遺跡として、周辺の地名を参考にして「奥山遺跡」と命名し、さらに範囲を広げて調査することとなりました。

西側尾根の調査区(A調査区)では、表土を取り除くとすぐにサヌカイトの破片が多く見つかりました。石器を作る作業場があったのではと考えられましたが、掘り進めるうちにサヌカイトとともにコンクリートの破片も多く混じるようになりました。この場所については西名阪道の工事に造成され、もとの地形はすでに大きく変えられているようです。しかしながら明らかに人の手によって割られたサヌカイトが多くあることから、この場所かごく近いところで石器作りが行われていたと考えられます。この地山にはサヌカイトが含まれないことから、B区あたりから原産地を運び込んで割っていたのでしよう。

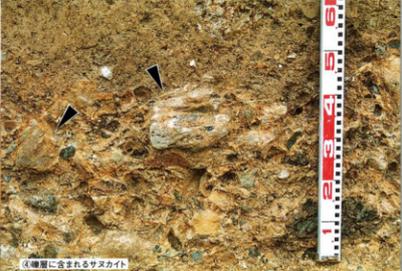


▲調査地近景(西北から)



▲A区東端

▲A区サヌカイト出土状況



B区では地表面から1mほど掘り下げると、サヌカイトの原礫を含む礫層(地山)と、それを採るためにあけられた直径1~3m、深さ1~2mの穴が無数に見つかりました。しかし無造作に掘られ、多くが重なり合うため一度の作業でどれくらいの大きさの穴が掘られたのかは今のところわかりません。その穴を埋める土にサヌカイトの原礫、割られた石のかけら、作りかけのもの、製作途中で折れてしまったものなどが多く混じっていました。

B区南半、つまり尾根の高いところの地山は花崗岩の風化土で、礫層はその下にもぐり込んでいきます。花崗岩の風化土中にはサヌカイト原礫は全く含まれていません。

サヌカイト原礫の採掘を目的として、原川に突き出た尾根の先端から採掘を始め、南つまり尾根の上方に向かって礫層の掘削を進め、原礫を含まない花崗岩の風化土に達したところで採掘を終えたようです。この礫層は東に向かっても深くなっていき、採掘された様子がないことをB調査区の東半で確認しました。採掘可能な礫層の範囲はこの尾根の狭い範囲に限られることから、この場所での採掘から石器製作までの一連の採掘期間はごく短いものだったようです。

### 出土遺物

サヌカイトの原礫がコンテナ240箱分、製作途中のものや割った時のかけらが120箱分みつかりました。重さにするとそれぞれ8,000kg、1,800kgにもなります。それら破片の様子から、長さ15~20cmの「<sup>1</sup>剣」を作っていたようです。「<sup>2</sup>鐵(ぞく、やじり)」のような小型品は今のところ見つかりません。

割られた石のかけらがくっつき合って、元の石の形に戻すことができるものもあり、これを接合資料といいます。原礫から製品を作っていくとき、どのような順番で石を割っていったのかがわかります。



▲ 接合資料

### まとめ

以上のことから、奥山遺跡は弥生時代中頃のサヌカイト採掘地、並びに石器製作地であったと考えられます。原川や大和川を利用して河内平野の集落に製品を送り出していたのでしょう。

二上山のふもと、西から北へかけての一带では以前より数カ所の原礫採掘や石器製作の遺跡が知られています。なかでも奥山遺跡からさらに東、府県境を越えた香芝市関屋周辺で特に多くみつかりました。今回、河内平野の集落により近い場所で、石器原産地、製作地としての様子がわかる遺跡が現れたことは、二上山西北麓における弥生時代の石器製作と流通、そして武器を必要としていた当時の時代背景を知る上での好資料となります。



①大きな石のハンマーを使って、サヌカイトの原種から板状の素材割片をとる。

②小さな石のハンマーを使って、板状の素材割片の厚みを取りながら形を整える。

③獲の角などを使って、縁部の形を整えながら突端部を作り出す。

④砥石を使って、柄部の無縁をすり落とす。

▲ 打製石剣の製作工程 (富田林市教育委員会 栗田 薫氏 作図)

## 報告書抄録

ふりがな	おくやまいせきほくつちようさがいはう							
書名	奥山遺跡発掘調査概報							
副書名								
巻次								
シリーズ名	柏原市文化財概報							
シリーズ番号	1997-IV							
編著者名	石田成年							
編集機関	柏原市教育委員会							
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1-43 TEL.0729-72-1501 (内5133・5134)							
発行年月日	1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市 町 村 遺跡番号		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
おくやまいせき 奥山	あひがほく 旭ヶ丘4丁目	27221	0Y97-1	34度 33分 07秒	135度 38分 41秒	19970127 / 19970919	5,000㎡	料金所新設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
奥山	生産遺跡	弥生	土坑	サヌカイト、須恵器、土師器				



▲製作途中の石器 S=約1/3 (写真提供 財大阪府文化財調査研究センター)

## 奥山遺跡 発掘調査概報

---

発行年月日 1998年3月31日  
編集・発行 柏原市教育委員会  
〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1-43  
TEL0729(72)1501 内5133・5134  
印刷 (株)中島弘文堂印刷所

---